

第41回淑楓祭

テーマ
COLOR

10/29(土)・10/30(日)

大学

今年は「COLOR」がテーマ。成長を重ねる淑楓祭

長久手キャンパス

星が丘キャンパス

両キャンパスの大学祭実行委員長によるレポートです。

今

年の淑楓祭は第41回を迎え「COLOR」をテーマに掲げました。

「COLOR」をモチーフとした装飾物がキャンパス内を彩り、学内団体の皆さんが模擬店や教室企画、ステージ発表で日々の成果を存分に発揮しました。

1日目のアーティストライブはZOCO Touches the Wallsさん、2日目のお笑いライブはアルコ&ピースさんをゲストにお迎えしました。ステージでは、華やかな衣装で見応えのあるヘアショーやメイン企画の男装・女装コンテストを行い、MAGIC☆PRINCEさんやOS☆さんなど多くのアーティスト、学内クラブ団体の皆さんにもご出演いただき大変盛り上がりしました。

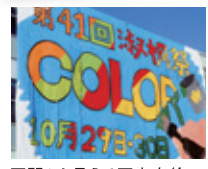
淑楓祭の最後を飾る後夜祭では、恒例の



はっぴーステージでのクラブ団体パフォーマンス

バルーンドロップの数が3000個から4000個に増え、会場をカラフルに彩りました。ゲームなどの企画や淑楓ダンス、後夜ダンスも大勢のお客様が楽しんでいらつしやる様子が見られ、とても嬉しく思っています。

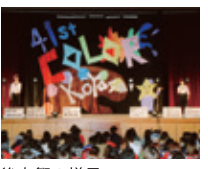
今年も天候にも恵まれ、2日間で22124人ものお客様にお越しいただきました。皆様に愛される淑楓祭に年々成長していることを実感しています。第41回淑楓祭を創るにあたってご尽力いただきました関係者の皆様、地域の皆様、団体様、お客様に対して実行委員一同心から感謝申し上げます。



正門から見える巨大布絵



教育学会による子ども向け企画



後夜祭の様子



フラダンス同好会のステージ発表



後夜祭のバルーンドロップ

第

41回淑楓祭は、天候にも恵まれ、ご来場いただいたお客様及び実行委員一同の笑顔が溢れた2日間となりました。また「COLOR」と

いうテーマに込められた、色と個性が存分に発揮された大学祭となりました。

1日目のトークショーは俳優の賀来賢人さん、2日目のお笑いライブは新宿カウボーイ・マシガンズさんをゲストにお迎えしました。メインステージでは、団体さんの発表・のど自慢などゲーム企画を行い、大変盛り上がり

ました。また、工夫を凝らした模擬店や、ゼミやサークルの活動を発表した教室企画を楽しむお客様の様子も見られました。



演舞中のよさこい探究会「鳴踊」

色鮮やかな装飾物は、構内だけでなくお客様的心も華やかにし、見たり乗ったり写真を撮ったりと、様々な方法で楽しんでいただきました。

例年より一層クオリティの高まったお化け屋敷・脱出ゲームは、子どもから大人まで幅広い年代の方々に楽しんでいただきました。

また、工夫を凝らした模擬店や、ゼミやサークルの活動を発表した教室企画を楽しむお客様の様子も見られました。

来年度以降も、多くの方々に愛され、いつまでも色褪せることのない淑楓祭を創り上げるよう、一層の努力をしてまいります。ご協力いただいた関係者の皆様、お越しいただいたお客様へ実行委員一同心より御礼申し上げます。



正面階段装飾



教室企画で工作を楽しむ子どもたち



大盛り上りの淑楓ダンス



団体による模擬店



実行委員全員で作り上げた「全体装飾」

● 沖縄研修旅行

11/2(水)~5(土)

中学校

11

月2日から5日まで中学3年生沖縄研修旅行が実施されました。太平洋戦争で地上戦となった沖縄、亜熱帯の自然が溢れる沖縄、米軍基地の問題を抱える沖縄、そして琉球王朝の時代から受け継ぐ独自の文化を持った沖縄と、研修旅行で学ぶべきことは沢山あります。今年も4月から意欲的に事前学習に取り組んできました。

実際に沖縄へ行ってみると、現地を感じる「感覚」と事前学習で得た「知識」が一体となり、自然の神秘や歴史の重み、戦争の悲劇が強烈に迫ってきます。ひめゆり学徒経験者の高齢化により次世代が語り部となった平和講話となりました。自分たちと同年代の女子学生が、同じように楽しく過ごしていた学生生活から一変して、過酷な戦場に駆り出され悲惨な最期を遂げたという事実や、戦後になってからも当時の記憶に悩まされ、友人を救え

ず生き残ってしまった自分を責め続ける元ひめゆり学徒の苦しみに生徒たちは衝撃を受けました。沖縄県民だけではなく日本人として、この戦争の記憶をどのように後世に受け継いでいくかが、現在の課題となっています。この後は轟壕、山城本部壕、マヤーガマに分かれて実際の方馬を体験し、生暖かい空気と暗闇の中、研修旅行委員が平和宣言文を読み上げて恒久の平和を願いました。

翌日は嘉数高台公園から移設に揺れる普天間基地とオスプレイを見、それぞれの立場でそれぞれが主張する基地の現状を知り、将来に向けて更に知識を深め、自らの頭で考えていく必要性を強く感じました。一人ひとりが現在の平和な社会を実感し、不戦への決意を新たにしたい研修旅行でした。



三線体験



白い砂浜 エメラルドグリーン海



ひめゆり平和祈念資料館



ガマの中



皆が集えばカチャーシー

高等学校

● 九州研修旅行

10/24(月)~28(金)

高

校2年生の研修旅行は、毎年4泊5日の日程で実施されます。そのうち1日目・2日目に訪れる予定であった熊本で、4月に大きな地震が起きました。この影響で、残念ながら熊本での宿泊と訪問を断念することになりました。代替の訪問地は、実施直前まで検討を重ね、佐賀県の「有田」となりました。有田は四百年の歴史を持つ焼き物の街です。現地では焼き物専門の美術館である陶磁文化館と、窯元を訪れました。どちらの訪問先でも伝統の技法を肌で感じるとともに、有田焼の繊細な絵柄と色遣いに感銘を受けました。

高校の研修旅行での一番の目的は、戦争、とりわけ核兵器の脅威について学習し、平和な世界をつくっていく社会の一員としての自覚をもつことにあります。研修旅行前の事前学習に加え、3日目に行われた、戦争遺構の見学、被爆体験者である下平作江氏による講



太宰府天満宮



吉野ヶ里遺跡



被爆者講演会



慰霊祭



柳川川下り

演、爆心地での慰霊祭によって、生徒は日頃平和な毎日を過ごしていることに感謝していました。

また、今回の旅行では、九州の特色ある文化・歴史・社会・自然について学ぶことも目的としています。有田以外にも、吉野ヶ里遺跡、柳川での川下り、島の雲仙普賢岳、長崎市内研修、九州国立博物館、太宰府天満宮参拝など盛りだくさんのコースで生徒たちは十分に学び、楽しむことができました。

帰りの新幹線では、ほとんどの生徒が疲れて眠ってしまったのですが、訪問先で出会った方々のあたたかさや、日頃共に過ごしている仲間の優しさに触れる機会が多くあったようです。高校時代の良い思い出となりました。